

令和4年度 広瀬図書館利用者懇談会 実施報告



- 1 日時 令和5年2月3日(金) 13時30分～15時
- 2 会場 広瀬市民センター2階会議室
- 3 出席者 個人利用者 : 3名
児童館 : 1名

広瀬図書館 : 広瀬図書館長 他3名
丸善雄松堂株式会社 2名
- 4 配布資料 ①令和4年度 広瀬図書館事業実績
②令和4年度 広瀬図書館アンケート結果
- 5 内容 1. 開会
2. 挨拶 広瀬図書館長
3. 自己紹介
4. 令和4年度の取組み (配布資料①)
5. 図書館アンケートについて (配布資料②)
6. 広瀬図書館へのご意見・ご要望等
7. 閉会

6 広瀬図書館へのご意見・ご要望等

ご出席者の運営評価、皆様から頂戴しましたご意見・ご要望は以下の通りです。

○大沢児童館の運営に関連して

【大沢児童館から】

- ・児童館として来年度は周りの施設との連携をして子どもたちのため、子育ての力になれるようなことをしていきたい。
- ・読み聞かせボランティアが児童クラブの子どもに読み聞かせをする時間が週に1回あり、その協力も得て図書室を整理していたが、現在はそれも難しい状況となっている。子どもたちや地域の方が利用しやすいように図書室のレイアウトや本の並べ方を工夫していきたいので、そういう点を図書館から教えてもらいたい。
- ・職員が児童クラブの子どもたちに読み聞かせを行う機会も多くあるため、職員研修として読み聞かせのテクニックや方法を教えてほしい。
- ・大沢小学校の子どもたちの利用が多いが学校での取組などもあり、本に興味のある子どもが多い。本に親しみのある子どもが多いので本に触れる機会を増やしたい。小学校だけでなく児童館にもブックトークで来ていただけるのであればお願いしたい。
- ・大沢から広瀬図書館は少し距離があって子どもだけではなかなか行きにくい。保護者と一緒にとりう形が多くなると思うが、子どもたちが本に興味をもって保護者の方にも協力してもらえようようにしていきたい。

【図書館から】

- ・地域に根差す図書館として実現したいものばかりである。図書館に来ていただくということもあるが、こちらから出かけていくというのも1つの考え方だ。多くの方に図書館を利用していただくという意味で実現は十分にありえると思うので相談させてもらいたい。
- ・読み聞かせの研修としては、天文台のスタッフサポーターを対象とする読み聞かせ研修を実施したことがある。依頼をいただければ協力できるのではないかと思う。
- ・図書室のレイアウトや本の並べ方については、広瀬図書館の併設施設である広瀬文化センター、広瀬市民センターから、キッズルームの絵本を購入、設置するにあたってアドバイスをしてもらいたいという依頼があり児童書担当が対応した。児童館の図書室での前例はないが、こういった形での協力が可能か検討できるのではないかと思う。
- ・ブックトークに関連しては、ブックトークと月の観望会を関連付けたイベントを天文台との連携により実施した。図書館の持つネタとしておはなし会以外にブックトークを知っていただきたいという趣旨もあって実施している。依頼があれば検討させていただく。

○大沢児童館の図書室について

【大沢児童館から】

- ・来年度からは図書室の利用も再開する予定である。コロナの状況も見て、曜日や時間を区切った利用になると思う。
- ・大沢児童館の図書室はそれほど広くないが、本の冊数としては大体5500冊くらいある。それをしっかりと仕分けるにはボランティアだけでは難しいところもあるので、今後職員たちとアイデアを出し合っていくことを予定している。

【図書館から】

- ・現在、児童館の図書室はどのような状況となっているかお聞きしたい。

【大沢児童館から】

- ・一般開放は行っていないが、子どもたちは図書室を使用している。十分な広さがないことから、密集状態を避けるために一般開放はできない状況である。

【図書館から】

- ・図書館では入口のところで必ず消毒を行ってもらっているので本に触れることによる感染のリスクは低いだろうと整理しているが、人と人の距離の問題は確かに難しいところだ。

【大沢児童館から】

- ・長らく一般向けの貸出などは行っていなかったが、そろそろ地域の方も図書室を利用したいと考えているのではないかと思う。週に何回といった形での開放を検討している。

○インターネットの普及による読書離れについて

【個人利用者から】

- ・スマホやパソコンなどによる WEB やインターネットの利用が普及して、図書・書籍が利用されなくなっている状況に対して危機意識を持っている。図書や書籍を実際に手に取って考えながら読むということは非常に大切なことだと思う。

【図書館から】

- ・仙台市図書館も電子図書館を普及させようとはしているが、宮城県図書館も含め、重心を移そうとは考えていない。紙も電子書籍も便利に使えるようにするというスタンスである。電子図書館は紙よりも遥かに費用がかさむので、思うように増えるということはない。どのくらいの割合に最終的になるか現時点では分からないが、どちらも便利に使っていただきたい。

【個人利用者から】

- ・信用できるものを使いたいという思いがある。電子書籍には慎重になっている。

【図書館から】

- ・電子図書館に対する要望も多いが、同じ予算で電子書籍を増やそうとすると紙の本よりも買える冊数が大きく減ってしまう。
- ・インターネットが普及して様々な情報に容易にアクセスができるようになった。あえて本で調べなくてもということも増えて危惧されているが、図書館としての軸足はあくまでも本にある。
- ・情報の信頼性という点で、インターネットで簡単に調べられる情報はどこが出典なのか、どこが責任をもってその情報を出しているのか、容易には分からない場合もある。
- ・本には必ず責任表示を含めて記載されているので、そこは図書館としても様々な調べものに対して相談を受けることがあるが、基本的には本をベースにして対応している。

○図書館へのフリーWi-Fiの導入について

【個人利用者から】

- ・図書館でフリーのWi-Fiが使えるようになれば大変重宝するのではないかと思います。

【図書館から】

- ・Wi-Fiについては仙台市図書館でも課題にはあがっているが、図書館本来の利用目的以外で図書館の席を使われてしまう可能性が高いこともあり検討が進んでいない。複合施設である市民センターのみ導入されているというのが現状である。

○MYライブラリサービスの貸出期限延長機能について

【個人利用者から】

- ・インターネット（MYライブラリ）サービスで、貸出期限の延長処理を行う際、処理の対象とする資料をひとつひとつ選択しなければならない。すべての資料をまとめて選択できるような機能を追加してもらえないか。

【図書館から】

- ・あってもよい機能だと思う。要望として承る。

○子どもの図書館利用について

【個人利用者から】

- ・配布されたアンケート結果を見て、利用者の年代がこれほど偏っているのかと正直ショックを受けた。もう二十何年も前のことになるが、小学生がいる家庭のお母さんから、「うちには本なんてない」と言われて大変驚いた経験もある。本を読んでもらわなかった子どもが親になった時、やはりその子どもに寝る前の絵本の読み聞かせをすることはないのだろうと思う。
- ・電子図書であれ本をめくる形であれ、図書館としては本に親しんでもらうために様々な施設との連携をしているのだと思う。
- ・本の読み聞かせは、読んでもらった思い出が次の利用に繋がるのでとてもいいと思う。
- ・出典のあやふやなものに頼ってしまう世代がこれから増えていくと思うが、その人たちにどのようにして図書館を使ってもらおうか。地道に児童館などと連携していくことが大切だと思う。
- ・図書館に来る親の子どもはやはり図書館に来ると思うし、子どもも図書館を利用していくと思う。図書館に来ない人たちに本の素晴らしさ、本を読むことで広がる奥行きをどう伝えていくか。
- ・私事だが和裁や着付けに関わっていて、小学生に浴衣を着せるということに取り組んでいる。子どもたちにとって和の文化に親しむきっかけになればと思っている。
- ・児童館での読み聞かせなどを通じて本に親しんでもらい、より下の世代の図書館利用をどのような形で広げていくか。「図書館に行って本を借りたい」と言ってくれる子どもたちを増やしていけるか。これからの図書館を考えると、そういうことが大事なのかなと感じている。

【図書館から】

- ・仙台市では当初より子どもの読書推進に重きを置いている。更にご指摘のような危機感は図書館にもあり、今年度から動き出した7年間の図書館振興計画では、尚一層の重点を置くようにした。
- ・そのことの一つの表れとして、乳幼児期から本に触れる機会を作るブックスタートという取組の実施を検討している。
- ・図書館に来ている人は普段も家庭で読み聞かせできているだろうし、本にも親しんでいるだろうと思うが、図書館に来ない人、若いお母さんなどでは子どもを膝の上に乗せて同じ目線で本を読むのではなく、対面に座らせて本を読むような人もいるらしい。「本を通した子どもとの接し方がどうなっているのか」と言う方も多い。
- ・親子が触れ合って同じ目線で本を見る頃から本に親しむきっかけとなるようなことを実施しておいた方が、先々、一時離れたとしても、その時の感触が残っていて図書館を利用してもらえるのではないかと思っている。
- ・子どもが図書館を利用するかどうかは、大人次第で決まってしまうところがある。保護者が図書館を利用しないとやはり子どもも利用することはほとんどない。先ほど紹介したブックトークという取組は小学4年生を対象として悉皆の実施としている。また、児童館などとの連携で普段は図書館に来ないような子どもたちに「図書館に行ってみよう」という気持ちになってもらえるような取組があると、それがきっかけとなって大人も図書館を利用するということはあると思う。
- ・開始したばかりの取組ではあるが、仙台市のプロスポーツ4団体と図書館が共同で行っている「スポーツ読書通帳」も普段は本を読まない子どもたちが図書館を利用するきっかけになると考えている。読んだ本を読書通帳に記入していき、40冊いっぱいになった読書通帳を図書館に持ってくると、各プロスポーツ団体の観戦チケット引換券がもらえるというもの。プロスポーツ団体の集客を狙う側面もあるが、スポーツをやっている人はどちらかというと本をあまり読まないという傾向がある、一方で本を読む人にもスポーツに目を向けてほしいという発想で、仙台市内の小学校には読書通帳を配布済である。

○図書館を利用する理由について

【個人利用者から】

- ・昔から母に本を読み聞かせてもらっていて、妹には私が読み聞かせをすることもあったという生活を送ってきたので本には慣れ親しんできた。
- ・出典が不明な情報に頼りやすい世代だなということも自分でも感じている。Instagram という SNS を利用することがあるが、自分がいいなと思った投稿を元におすすめの投稿を AI が抽出するように設定されているため、今ある世界を広げていこうとすると新しい単語を自分で入力（検索）する必要がある。図書館では色んなジャンルの中からその場で本を選べるので、とてもよい場所だと思って利用している。

○近隣商業施設でのおはなし会実施について

【個人利用者から】

- ・読み聞かせは小学校によく来てもらい、楽しかったし本を好きになるきっかけにもなった。
- ・図書館の近くにある錦ヶ丘ヒルサイドモールでは、土曜日・日曜日に子ども連れの家族もよく見かける。以前は野菜の直売などを行っていたが、現在は活用されずフリースペースとなっている場所があるので、そこで読み聞かせができたら買物のついでに立ち寄ってくれる人もいないのではないか。図書館の利用者も増やせるのではないかなと思う。

【図書館から】

- ・図書館に来てもらうばかりではなく、こちらから出向いていくことも考えていかなければならないことなので、1つの案として参考にさせていただきたい。

○中高生向けのイベントについて

【図書館から】

- ・広瀬図書館では中高生向けのイベントとして、先ほど紹介した選書アドバイザー会議の他に、10代向けの読書会を開催している。選書アドバイザーは継続しての参加があるなど一定の人数が集まるが、読書会では集客に苦労する面がある。来館のきっかけ、読書文化の普及といったことも考えながら、図書館が中高生向けのイベントを行うにあたり、どんなイベントであれば参加してみたいと思うか。

【個人利用者から】

- ・普段から図書館を利用していれば行事を把握できるが、読書会があるということを知らない人が結構多いのではないかな。実現は難しいかもしれないが、公式 LINE で「今月はこういう展示をしています」などの情報を発信してもらえると、慣れ親しんでいるものから図書館の利用に繋がるのではと思う。
- ・イベントについては、流行に合わせるよりも流行の逆を目指した方が良いのではないかな。自分の好きなものに関する情報だけが周りにたくさんあって、人間関係でもメッセージのやり取りで疲れてしまったりすることもあるので、例えば飲み物とか、着付けや着物のことだったり、自分が知らないことに触れられて、スマホから離れて気持ちを休められる時間を過ごせるようなイベントがあったら参加してみたい。

【図書館から】

- ・仙台市図書館で現在運用している SNS は Twitter のみで、フォロワー数 2000 人未満という状況。運用開始から 3 年目としては少なすぎるのではないかなとも感じている。
- ・中高生目線では、やはり LINE や Instagram、TikTok あたりが身近だろうか。中高生向けという視点では Twitter はチャンネル違いの面もあるかもしれない。

【個人利用者から】

- ・Twitter も見てはいるが、アカウントをフォローしていてもタイムライン上では投稿がどんどん流れていってしまう。リツイートするなどしない限り情報を残しておくこともできない。

【個人利用者から】

- ・秋に開催される「宮城地区まつり」では中高生の姿をよく見る。そこと連携するのが良いのではないか。

【図書館から】

- ・「宮城地区まつり」には中高生ボランティアの参加がある。規模こそ縮小したが、今年度は3年ぶりに開催された。しかし、感染症対策に関わる学校側からの意向で今年のボランティア派遣は実施されなかった。
- ・2023年度も「宮城地区まつり」の開催は計画されているので、今年は中高生ボランティアを意識した取組も可能ではないかと思う。

【個人利用者から】

- ・ボランティアだけでなく来場する中高生も取り込んでいけると良いのではないか。

【図書館から】

- ・友人がボランティアとして関わっていて、その繋がりから来場する中高生もいるようだ。今後、中高生のボランティア活動が再開された時に、来場者、ボランティアの中高生にどういったアピールができるか検討していきたい。

○児童館における団体貸出サービスの認知度等について

【図書館から】

- ・仙台市図書館では市内で活動する団体向けに団体貸出サービスを実施している。具体的には上限30冊、30日間の貸出が可能である。児童館が利用しているケースもあると承知しているが、このサービスの児童館側から見た認知度はどのような状況か。

【大沢児童館から】

- ・認知度としてはそんなに広まっていないと思う。
- ・児童館だけでなく併設の市民センターも含めて、「多文化共生」や「SDGs」をテーマとする運営を求められている。例えば、市民センターでは「子どもお楽しみ体験講座」という講座がある。今年は実現しなかったがモンゴルの方を呼んでホーミーを演奏してもらったり、モンゴルのテントであるゲルを建ててその中で活動してもらおうといったことを計画していた。そういった時に合わせて、モンゴルに特化した本を置いておけば子どもたちもより興味を持つのではないか。
- ・市民センターや児童館の行事に合わせた内容の本を少し持ってきてもらって触れられるようにしておけば、1回きりの行事にならずに繋がりや深まりが生まれてくるように思う。また、そのことをきっかけとして図書館に対する理解が深まり、図書館を利用する子どもも出てくるのではないか。

【図書館から】

- ・団体貸出サービスについては、読み聞かせボランティア団体などが読み聞かせで使用する本を借りるためという想定が主としてある。
- ・児童館などの施設が団体貸出サービスを利用しようとする場合に、上限30冊、30日間という貸出が、各種施設で所蔵されている本を補うという意味では十分な冊数、期間なのかという面もある。
- ・講座等に関連するテーマの図書を貸し出すという提案は大変参考になった。指定された主題の図

書を選書することはできるので、そうした講座が開催される際には依頼をいただければと思う。

○広瀬図書館の本の配置やレイアウトについて

【図書館から】

- ・図書館利用者アンケートにおける「本の探しやすさ」についての満足度は、「満足」と「おおむね満足」を合わせて半数以上という結果ではあるが、他の項目と比較すると満足度がやや低く出ている。当館を利用されていて、本の配置やレイアウトについてお感じになられることがあれば率直に伺いたい。

【個人利用者から】

- ・よく利用していて慣れてもいるので、本が探しにくいと感じることは少ない。専門書はジャンルが整っているので見やすいと思う。絵本のコーナーには触れる機会が少ない。YA コーナーについては、選書アドバイザーとして活動した時に棚を広げてたくさん本を置いてもらったので、読みたい本がたくさん読めて嬉しい。
- ・初めて広瀬図書館を利用するような人に意見を聞く方が参考になるのではないか。

【個人利用者から】

- ・福祉関連の専門書を仙台市以外の図書館から取り寄せてもらうことがあるが、様々な制約があってすぐには借りられないことがある。どういった場合に借りられて、どういった場合に借りられないのかよく分からない。
- ・そうした制約について、利用者の目線では疑問に感じることもあるが、専門書は限られた図書館にしか所蔵されていないので、もう少し簡便に貸出が受けられれば良いと思う。
- ・全国から取り寄せられるということを知っている人が意外と少ないので、こうしたことの周知も行っていく必要があるのではないか。

【図書館から】

- ・仙台市で所蔵していない資料について、リクエストという形で申し込みいただいた場合、購入して提供できる場合もある。
- ・または、購入はせずに仙台市以外の自治体等の図書館から資料を借り受けて利用者に提供する場合もある。この場合、その資料を所蔵している図書館での資料の取扱い（新着資料は貸出ししない等）によって、提供できるまでの時間が変わってくる。

【個人利用者から】

- ・図書館全体の棚の配置やレイアウトが記載されている案内はあるのか。

【図書館から】

- ・館内に何か所か掲示しているほか、配布用の館内 MAP も準備している。
- ・カウンターでお声掛けいただければすぐにお渡しできる。MAP が利用される方にとって分かりやすいものとなっているか、ご意見をいただければと思う。

【大沢児童館から】

- ・図書館ではないが、書店では書棚のところに椅子が設置されているところがある。椅子があると利用する方にとっても良いのではないか。
- ・子どもの目線では、図書館はあまり大きい声を出してはいけない場所なので行きづらいなという印象もあると思うが、児童館の図書室では少し寝転がることができて、ゆったり本が読むことができるようなスペースを作りたいと思っているが実現できていない。
- ・広瀬図書館でそうしたスペースを作ってほしいということではなく、児童館の図書室ではそういう場所があっても良いのではないかと考えている。

【図書館から】

- ・広瀬図書館と同じく丸善雄松堂株式会社が指定管理者として関わっている利府文化交流センターでは、子どもたちが図書館に宿泊するというイベントを開催した。
- ・夜の図書館は子どもたちが自由に過ごす空間となり、自分の寝床にたくさんの本を持ち込んで寝転びながら本を読む姿が印象的だった。
- ・広瀬図書館でも通路に座り込んで本を読みだしたりする子もいる。確かに本を楽な姿勢で自由に読める空間があれば、子どもたちにとっても過ごしやすいのではないかと思う。